

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171700125		
法人名	有限会社 エムエス		
事業所名	私とゆかいな仲間		
所在地	嬉野市嬉野町大字下宿甲4129番地1		
自己評価作成日	平成22年10月11日	評価結果市町村受理日	平成23年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成22年11月19日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携体制が整っているため、健康管理を行い急変時等すぐ対応でき、安心して暮らせる施設です。病院併設で平日のリハビリや機能訓練ができます。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関との併設というメリットを活かした即時の医療対応や毎日のリハビリテーションが特徴的で、家族等からも優れている点として評価されている。法人の医療機関との連絡体制が整っており、利用者、家族が安心して日々過ごすことができる。グループ全体の統一的な研修、行事が実施されるなど、法人の組織力が活かされている。職員は、法人の方針を担い、福祉に対する熱い思いを持ちながら、利用者の気持ちに寄り添い、その人らしく、穏かで安心のある暮らしを支えている。地域住民の認知度も高いこともあって入居者の半数以上が地元地区の住民である。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者お一人おひとりの人権を尊重し、お一人おひとりの健康状態、考え方を理解し、より良いケアを目指す為ホーム内に提示している。管理者と職員で話し合いや確認作業を行い情報を共有している。	施設内の来所者にも見える場所に運営理念を掲示し、就業前に全員で読み上げている。そのほか、インシデント発生時にも確認を行っている。2年前からは理念に沿った月ごとの目標を作成し、実践に向けた取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに出かけたり、婦人会の訪問を依頼したり、地域の情報を提供してもらっている。	地元のカラオケグループ、中高生のインターンシップを受け入れている。婦人会の訪問は関連法人との合同敬老会でのもの。日常的な交流はできていない。	地元の消防団による防災の指導、近くの保育園との交流、回覧板のやり取り、自治体の奉仕活動に、地域の一員として参加を行う等交流機会増加を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場や地域の民生委員の方等から相談を受けることもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、利用者の状況や出来事、職員の研修状況の報告や意見交換を行っている。	会議は、定期的に行われている。民生委員、地域包括支援センター職員の参加がある。利用者の現状、ホームの行事など報告し、意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターより出席して頂き、その場で質疑応答や地域の情報を頂くこともある。	行政の担当者とは、日常から連携をとり、困難事例等の相談、ヒヤリハット事例の対応などに具体的な指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設医療機関の身体拘束委員会に出席し、職員全員理解しており拘束等はしていない。玄関は開放しているが、利用者の安全面から階段入り口のドアは施錠している。ご家族の理解も得ている。	職員は、身体拘束の弊害について理解されているが、内玄関を開けた先にまもなく階段があることから危険であるとし、常時施錠している。	身体拘束による弊害を理解し、利用者の安全を守りながら自由を確保すべく、拘束に頼らない方法の検討を今後も続けて欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や学習会があれば参加するようにし、入居者さんに対しての言葉使いには十分注意するようにし、気が付いた時は職員間で注意するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで制度の利用はなかったが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学習し今後支援出来るようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分に説明を行い、その都度確認を行い、疑問点にも丁寧に応答している。また後で疑問が生じた場合も遠慮せず聞いて頂くように話しをしている。料金の改定や変更時は説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者にはモニタリング時等に問いかけをして、意向などを聞くようにしている。ご家族には毎月手紙を出し近況報告を行っている。また運営推進会議の案内を出し、出席時に意向などを確認している。	家族訪問時には声かけを行い、家族から意見等が表わしやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で話し合いを行っている。	必要に応じ職員会議を開催し、連絡申し送り・個別ケアプランに関すること・入居者からの要望・苦情について・業務改善に関することなどを話し合っている。職員の勤務年数が長くフランクに話せる信頼関係が構築されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月休み希望を取り、勤務票を確認している。併設医療機関との交流やレクリエーション等も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設医療機関で行っている各委員会に出席し意見交換をしている。学習会や研修会への参加も勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員が他の施設へ訪問したり情報交換し、当事業所職員へ情報提供をしたり、他の施設の良いところを業務に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人やご家族とご希望等話し合い、希望に沿えるように職員間でも話し合いを行いを行っている。本人の表情や言葉かけに注意するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族が相談しやすいように傾聴し、対応などにも気を付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望などを良く聞き支援を行っている。併設事業所や他のサービスについての案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族という気持で日常生活の支援を行っているし、ご本人がやりたいとされている事は共に楽しみ楽しく生活して頂くように職員一同心がけるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月生活状況を記した手紙をお送りし、またお伝えしたい事があれば連絡をして、面会を依頼するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のこれまでの生活等を聞き把握するようにしている。面会時もゆっくり出来る場所の提供をし、再度面会に来ていただけるよう言葉かけを行っている。	家族をはじめ、入居者がかつて地域活動を共にした仲間が訪ねて来られるなど、馴染みの人との関係は良好である。以前はお墓参り等に行っていたが要望がなくなったとの理由から現在は馴染みの場所への外出が少ない。	実施を検討されている聞き取り調査によって馴染みの場所の掘り起しなどがなされることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性等を把握して、孤立されないよう利用者間の仲介を行うようにしたり、座る場所にも気を付けている。会話しやすい雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設で培われた人間関係は極力継続するようにし、相談や支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、家族からの情報を記録に残し、スタッフ間で共有し個別ケアにつなげている。	入居者ごとに、口ぐせ、喜ぶ言葉、嫌がること、したがること、気づき、食事の要望が書き込めるシートを作成。全ての職員がいつでも記入でき、細やかな意向の把握ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族やこれまで利用されていた事業所や病院、施設等から情報を得ている。また日々の観察や面会にいらした方からも情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、食事摂取量、排泄状況や過ごし方をこまめに記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はご本人、ご家族の意向を基に制作している。モニタリングや計画見直し時はカンファレンスを行い、その都度修正している。	利用者の日々の様子は上記の要望等を記入するシートを活用し計画立案がなされている。モニタリングについては計画担当者が全ての職員に意見を聞いて回っている。家族へは面会時に意見聴取、説明同意を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表を作成したり、ご利用者の状況等こまめに記録している。気づきや申し送りなどはノートに記録し職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望を極力取り入れ、出来ることはサービスにつなげる。日々の生活が単調にならないように考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設診療所のリハビリや病院歯科受診、馴染みの美容師さんを利用するなど関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院時の支援を行って生活状況を報告するようにしている。体調に変化があれば直ぐかかりつけ医に連絡し、診察を受けるようにしている。	現在、全ての入居者が併設の医療機関のかかりつけとなっており、定期的な通院を行っている。家族に面会を兼ねて、通院を依頼することもある。診療科目によっては他院へ職員が付き添って通院する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当の看護師が毎日訪問し日常の健康管理を行っている。日誌や連絡帳を利用し、状態の変化を把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受診時は毎日のバイタルチェック表や日々の様子を伝えている。入院時は身体状況や日々の様子ろ記した用紙を提出している。こまめに面会に行き病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方についてご家族と話し合いをして意向を確認するようにしている。	昨年指針を作成。新規の利用者については入居時に説明を行っている。以前からの入居者については状態変化時等、随時説明を行っており、現入居者については指針の説明が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の救急蘇生講習会や併設医療機関の医療事故対策委員会や学習会等に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者の状態の変化により避難の方法を話し合っている。併設医療機関の職員への協力を得て訓練をしている。	火災については、併設医療機関と合同で年に2回実施できている。夜間想定訓練はない。避難場所の確認等地震、水害対策はなされていない。	所管の消防署、地域の消防団、住民等と協議の場を持つなどし、協力体制を構築されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いに十分注意を払い、慣れ合いにならないように気を付けている。表情などの観察をし、困った表情などをされているようであれば、居室で話をするなどプライバシーの保護に努めている。	コミュニケーションのなかで入居者一人ひとりの思いや意向を把握し、支援している。入職時には、言葉かけや対応について研修を行い、秘密保持に関する誓約も交わしている。カルテは施錠できる棚にて管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選んだり決める機会を多く作るようにしている。表情や行動からその方の思いを感じ理解するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日バイタルチェックを行った後レクリエーションや雑談をし、一人ひとりに今日は何をして過ごそうか等の意向を聞くようにしている。なるべく個々の意向に沿って支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の希望に沿って散髪をしてもらったり、季節に合った服を選んでもらうよう、また着脱できない方は好みの色やに会う服を選んで本人に確認して着ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃から食事の準備や盛り付けと一緒にしている。食べたい物を尋ねてメニューに取り入れている。	併設法人の給食部門から出された献立表を参考に、グループホームの職員が利用者の好みに合わせ味付け等をアレンジしている。入居者に対しては食材を切る、片付ける、トレイを拭くなどの手伝いを依頼している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立を基に、施設で工夫し利用者に合わせて食事を作り、食事の形態を変えている。体重管理や水分管理は特に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、定期的に歯科受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。夜間も声かけを行い自立に向けた支援を行っている。	定時と希望時にトイレへの誘導を行っている。重度者についてはポータブルトイレを使用するなど能力に応じた対応も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、食物繊維の多い食材を取り入れたり、腹部マッサージを行っている。処方されている下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの体調や心身の状況を見て入浴を決めている。順番も不公平にならないように入れ替えたり、じかんも個々に対応している。	基本的には週に3回曜日を決めての入浴としているが、希望によってはあらかじめ決まった曜日以外の入浴にも対応している。浴槽をまたぐことができない入居者については、併設施設のリフト浴にて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの状況に応じて休息して頂いている。居室の温度や湿度をチェックし快適な睡眠ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの服薬説明書を確認するようにしている。薬箱を用意し1回分ずつの薬を準備し、間違いがないように慎重に行い、服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な分野はその活躍の場を設けたり、その方に応じた支援を行ったり、レクリエーションが単調かしないように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を希望される方がいらっしゃれば外出できるよう努めている。夏祭りなど地域の行事に参加をしている。	自発的に外出を希望する入居者がいないため、日頃は天気の良い日に施設周囲を散歩する程度である。今年は、地域の行事には参加ができています。	利用者が施設内に閉じこもることなく、気軽に外出できるよう、盆正月の帰省など家族との連携も図りながら支援することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持し管理することが難しいので、施設で金額を決めて預かっていて、買い物に行かれる際に一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望された際に手助けを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節に合わせて装飾を変えている。不快感を与えないように配慮している。	食堂兼居間について、壁面に利用者のスナップ写真ははじめ、切り絵等の装飾が施されている。調理場とはカウンター越しに会話が交わされ、野菜の下準備など手伝いもしやすく、利用者の参加の様子もよくわかる。加湿空気清浄機が3台設置されており、臭いや湿度にも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋でくつろいでいただいたり、ホールで皆さんと会話をしたり、一緒にテレビを視聴していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の面談時に日頃使用されていた物や好みの物を持って来ていただくよう、ご本人やご家族に話をしている。	ベッドとタンス、床頭台は施設があらかじめ準備しており、整理整頓ができており、落ち着いた空間となっている。希望によって入居者の使い慣れた物を持ってこることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には絨毯や手摺設置で転倒防止に努めている。廊下歩行時にセンサーで点灯されるようになっている。通常ベット使用だが、利用者の希望や状態に応じて畳を準備する。		